

千葉大学法政経学部 同窓会報

第25号

2015年8月20日発行



目次

朝日新聞社社長に渡辺雅隆氏 就任「恩師のこと」	1
同窓会報25号発行にあたって	2
クローズアップキャリア「地方議会の現場から」	3・4
多方面で活躍される卒業生「ロックバンドつしまみれ」	5・6
夢を追って～OB仕事語り～「すべての依頼者を笑顔に」	6
卒業生エッセイ「アメリカ西海岸の空の下から」	7～9
大学トピックス	9
思い出&近況報告「昭和40年卒のクラス会『四葉会』」	10
コラム「葉法会『模擬裁判』を傍聴して」	11・12
追悼文(渋谷敏夫氏(昭和33年卒))	12
祝 司法試験合格!	13
Information ～同窓会だより～	14
編集後記	14
同窓会總會のご案内	15

発行

千葉大学法政経学部同窓会

〒263-8522

千葉市稲毛区弥生町1-33

FAX 020-4624-1924

ホームページアドレス

<http://culpe-ob.com/>

朝日新聞社社長に

渡辺 雅隆氏 就任



恩師のこと

渡辺 雅隆

(昭和57年卒)

桃の節句のころ「葉法会（千葉大学法律研究会）OBの皆様」宛てのメールが、古い友人から届いた。大学を出て30年余。アルバイトに明け暮れ、お世辞にも勤勉とは言えない学生生活を送った私にとっては、ほぼ唯一ともいえる恩師の訃報だった。

中川良延先生、享年83歳。家族法がご専門で、いつも穏やかで優しくかったが、芯の強さを感じさせる先生だった。

入学してまもなく葉法会に入り、顧問をされていた先生と出会った。入会したのは、大学祭で披露する模擬裁判の要員確保に悩んでいた（と思われる）諸先輩から熱心に誘われたから。正門近く

の喫茶店でパフェをごちそうになり、断れなくなった。

とはいえ、葉法会の生活は本当に楽しかった。法学研究というよりも、そこに集まっている「ひと」が面白かった。当時の仲間4人で一時期、一軒家を借りて住み、そこが会員のたまり場になったこともある。

司法試験への思いを早々とあきらめ、就職先についてあれこれ考えた末に、アルバイト先でもあった朝日新聞社を目標に決めたのは大学4年になってからだ。そのころ、中川ゼミで書いた論文が「内縁関係の保護とその限界」。相続などで不利益を被る「内縁」の法的な課題、問題を考察したもののだが、新聞社の面接試験で卒論について問われ、そのタイトルを口にした途端、緊迫した空気が突然、ほどけた。

理由はよくわからない。ただ、それからの面接時間は「内縁問題」に終始し、苦手な国際情勢などの分野にはまったく入らないままに終了。おかげで、何とか入社にこぎつけた。

家事調停委員をしたり里親支援などの活動に関わったりしていた先生は、実務への関心も高かったのだと思う。新聞社で仕事をするようになったことを、とても喜んでくださった。入社翌年に結婚した際には、披露宴で励ましの言葉をいただいた。

新聞社では初任地の鳥取を皮切りに、京都・宇治、東広島、大阪、神戸、京都、東京と転勤を繰り返した。引越越し歴は入社以来の32年間で14回を数える。

先生とは、季節のご挨拶くらいしかできなくなってしまうが、ただ年賀状などにはジャーナリズムの重要性などについて書かれていたことが多かったように思う。

私が新聞記者を目指したのは、たぶん「ひと」への関心が強かったからだ。世の中のひずみは、弱いところに集まる。それを見つけて、社会全体の課題として考えるための材料を提示してく。人々の喜怒哀楽をしっかりと受け止め、発信する。そんな仕事があったらいいと思って。主に社会部の記者として過ごしたが、若い日の思いをどこまで達成できたのかとなると、情けないことに、あまり自信はない。ただ、社会部長や編集局

長時代も、若い仲間たちには同じことを言い続けてきた。

この原稿を書き始めたときに先生の訃報が届き、パソコンであらためて経歴を調べていて、偶然、「中川良延先生に贈る言葉」という文章にたどり着いた。1997年に千葉大を定年退官された先生は、その後5年間、山梨学院大学で教鞭をとられた。文章は2002年に同大を退職された際に、当時の法学科長が記したものであった。そのなかで学科長は、「人間を愛し、事件の当事者の立場で紛争を解決しようとの意欲に満ちた」と、先生の家事調停委員としての活躍ぶりに触れ、「家族とは何か」を考え続けたその仕事ぶりを讃えていた。先生は法律の向こうに、いつも生身の人間を見ていたのだと、あらためて気づかされた。

大学生だった自分たちに、先生は「ひと」に対する思いを伝えようとしていたのではなかったか。その影響を知らず知らずのうちに受け、それが記者の仕事につながったのだとしたら……。ふと、そんな思いにとらわれ、先生の温かいまなざしを思い出した。ご冥福をお祈りします。先生、ありがとうございました。

同窓会報25号発行にあたって



法政経学部同窓会会長

吉永英明

(昭和39年卒)

同窓会長の吉永です。会員の皆様方には、同窓会の活動に対し温かいご支援とご協力をいただき、お礼を申し上げます。

こうした表題で編集者よりテーマを与えられると、1号発刊が、平成10年11月20日ですので、早くも15年が経過した事に、驚く次第です。第1号では、再出発の趣旨を「同窓会は、平成5年を最後に名簿の発行もなく休業である。他学部の活発な同窓会活動と比較し、千葉大の唯一の社会科学系専門学部として、幾多の有為な人材を送り出してきたわが学部の現状

は、誠に遺憾の念を禁じ得ない。共通の学舎に多感な青春を送った者が集い、親睦を深め、母校の発展に寄与しようよう、確固たる同窓会組織を構築する。」と表明しています。

しかしながら、同窓会員の卒業学部についても、文理学部、人文学部、法経学部、昨年からの法政経学部と、名称を変更しておりますし、また、国立大学から独立行政法人への移行も、大学の危機感を深め、地域の中での一体化が必要となり「千葉大学の全学同窓会校友会」の設立にもなっております。

最近は更に、国立大学に対する国の方針も、大きく変わろうとしております。

少子化とそれに伴う学生数の減員を踏まえ、人文社会学系学部の減員、地方国立大学の地元地域への特化と技術系を中心とした専門分野への特化、という通達が出されております。

千葉大学でも、来年、国際教養学部を設置し、国の方針に沿った

学部構成を模索しています。

しかし、どのような環境になろうとも、同窓会は、卒業生の学んだ学校生活を、いつまでも身近に感じ、先輩・後輩との連絡や同級生の情報など、いつでも受け止められる組織として、ホームページ、同窓会報、年1回の総会等の維持管理活動を行い、全国に1万人程度の同窓生が散らばっておりますが、それぞれの分野で、頑張っている、そうした情報を、いろいろな形で皆様方にご紹介していきたいと考えています。同窓会活動の一端が皆様の楽しみになれば幸いです。

同窓会の現状については、同窓会の会員も高齢化しております。定年までは仕事や家庭の事といった状況で、自分自身を作り上げた大学時代の事など思いつくこともなかったと思いますが、年令がいつた今は、大学時代を懐かしく思い、千葉大学は、どんな風に変わったのか、先生方はどうしているのだろうか、同級生は先輩は後輩はと、振り返る機会が増えているようです。同窓会では、年1回の総会を大学校内で開催し、現在の学生や・校舎を見ていただく、懇親会により世代を超えた交流を図

る、ホームページを開設し手軽に情報を提供する、メールにより直接に必要な要件が確認できる、同窓会報で同窓生の活躍を紹介する、等々の活動をしております。これからも、こうした地道な活動を通して、法政経学部を卒業された皆様方の、連絡の場としてお役にたてていただきたいと考えております。

一方、活動を支援する者が不足しております。若手の方や手の空いている方で、手伝いできそうな方は、是非ともご連絡いただければ幸いです。

最後になりますが、同窓会員の皆様方が、同窓会総会に足を運ばれて、交流を深め、将来の千葉大学の姿を語り、これから続いていくであろう後輩のため、支援出来ることがあるかを考えましょう。会員の皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。





宮崎県議会議員

二見 康之

(平成15年卒)

宮崎県議会議員の二見康之と申します。宮崎県都城市にある地元高校を卒業後、一九九九年四月に千葉大学法政経学部に入學、二〇〇三年三月に卒業しました。一年目の取得単位を考えますと

地方議会の現場から

「よく卒業できたな」と自分でも思うくらい成績は良くありませんでした。四年生の時と卒業後に地元の県庁・市役所を二回受けましたが見事に不採用。人生振り返ってみると、自分では順風満帆にきていると思っていました。よくよく考えてみると結構挫折も経験しているなあ、と思いました。品川の不動産会社に内定を頂いていましたが、政治の道で故郷のために働きたいと思っておりましたので卒業後、就職浪人で帰郷。その頃、今から十二年前ですが、ちょうど全国統一地方選挙の時期でした。二回目の公務員試験に向けて猛勉強中(?)でしたが、遠い親戚筋にあたる長峯誠県議(現参議院議員)が三期目に向けて活動中でしたので、「親戚として手伝いに行け」と父から話があり、約一カ月間選挙の手伝いにいきました。この時に感じました。政治はよく「まつりごと」といわれますが、まさに「祭事」であると。自分たちの代表となる候補者をみんなで盛り立て、当選を勝ち取るために力を結集し選挙を戦う。決して強制ではなく、一人ひとりが自分ができることを精一杯する、明るく、楽しく、真剣に活動する。これが選挙なのだと感じました。

・政治とは

みなさんは、「政治」というものをどのようにお考えでしょうか。辞書を引きますと「住みやすい社会を作るために、統治権を持つ者が立法・司法・行政の諸機関を通じて国民生活の向上を図る施策を行ったり治安保持のための対策をとったりすること」とありました。学校で習うとそのような説明になるのだと思うのですが、私の考えとしては、政治とは、国民から強制的に徴収する「税金を何に使うか」を決めることだと思います。国の予算は約九十兆円ですが、それを「何に」「どのように」「使うか」を決めるのが内閣、国会の役割であります。同じように、地方においては都道府県・市町村が予算を「何に」「どのように」「使うか」を作り、議会がそれを認めたならば、行政機関が執行するという関係にあります。

・県議会とは

議会の役割について少し説明します。宮崎県議会は、年度初めに召集されます臨時議会と年四回開かれます定例議会があります。臨時議会では一年間の議会運営について議論します。正副議長や正副

委員長、所属する委員会や特別委員会設置などについて決めます。定例議会は六月、九月、十一月、二月に開催されます。六月議会は補正予算等について、九月議会は前年度の決算について、十一月議会は補正予算等、二月議会は来年度予算について主に審議されます。みなさんも耳にされたことがあると思いますが、PDCAサイクルというものを存じでしょうか。PLAN(計画)、DO(実行)、CHECK(評価)、ACT(改善)と同じように、政治は地域の課題に対し政策(計画)をつくり、執行(実行)する。その結果を精査(評価)して、次はどのようにするのがいいか検討(改善)する。課題や政策について、議会と執行部は代表質問や一般質問、各委員会において議論を交わします。行政において予算の執行は年間通じて行われまじ、予算案ができてからは中々修正することは難しいものです。基本、行政は継続していくことが原則ですから、何をどのように改善するのか議論する「決算審査」において執行部としっかり議論することが大切で、その議論の結果を反映させた予算案を作成してもらうことが私たち議員にとっては重要なことなのです。予算が大事

だと思われがちですが、実は九月に行われる決算審査が最も重要になります。

・議員について

つぎに議員についてお話します。地方議会においては様々な課題について専門的知識に基づく話（農林水商工業や医療福祉、教育、警察、環境、防災行政など）や地域の実情をしつかり伝えていく議論をしていかなければなりません。ですから、議員には「知識」「見識」「胆識」という資質が必要であると思います（浅学非才の私がいうのもおこがましいのですが）。「知識」とは情報です。専門的議論を展開していくためには、その分野に精通した知識が必要で、本を読んだり、お話を聞いたり、無知をなくす努力が求められる、それは日々変化し続ける現代社会において終りのないものです。次に「見識」とは、政策を実行することによって想定される（長期的）影響・効果を見極めること、現実の複雑な社会においてどのような影響を及ぼすのかという判断力です。そして「胆識」です。胆識は肝っ玉を伴った実践的判断力とでも言うべきものです。困難な現実の事態にぶつかった場

合、あらゆる抵抗を排除して、断乎として自分の所信を実践に移していく力が胆識ではないかと思えます。四年前の東日本大震災はみなさんも記憶に新しいことと思います。宮崎県ではその前年に口蹄疫が発生、約三十万頭にも及ぶ家畜殺処分をしてやっと終息。年明けには鳥インフルエンザも発生。

この時、全国から多大な物心両面にわたるあたたかいご支援をいただきました。それから想像を超えらるあの大震災。マスコミでも騒がれました「放射性物質汚染」の可能性のあるがれきをどう処理するか、とても大きな課題でした。私も現地に行きましたが、震災復興のためには、まず何よりあの膨大な量のがれきを処理することが第一であると感じました。しかし、世間ではがれきの受入れ可否について国民を二分する大論争。宮崎県においても例外ではなく、どこ

のとき、様々なところから沢山の抗議が県議会に届きました。しかし、私は思います。「義を見てせざるは勇なきなり」。本当の友とは何か。事が順調にいつているとき人は寄ってくるものです。しかし、本当の友というものは、普段は疎遠であったとしても「いざ困った」というときにはどこからともなく現れそばに居てくれる、力になってくれる。そのようなものであると私は思います。社会は「信無くんば立たず」であります。特殊詐欺事件など現代社会の抱える問題は色々なところでその様相を呈していると強く感じます。まずは政治がそのことをしっかりと受け止め、地域を治め、国を治めていくことにより日本社会を立て直していくべきだと思います。

・おわりに

勝手なことばかり書かせていただき汗顔の至りであります。私自身まだまだ学ばなければならぬことばかりで、もっと時間が欲しいと思います。しかし、一日二十四時間三六五日というものも等しく与えられたものですし、過去を悔やんでも時間は戻っていきません。これからをいかに充実し

たものにしていくか。一八九〇年の第一回総選挙から連続当選二十五回、衆議院議員として六十有余年、九十四歳で初落選という快挙を成し遂げた「憲政の神」「議会政治の父」と呼ばれた尾崎行雄氏。亡くなる前年、九十四歳の時に書かれた『人生の本舞台は常に将来に在り』という言葉。半生を省みたときに猛省しかない私ですが、故郷の政治の一端を担わせていただくことへの感謝の思いを胸に、多くの方々から頂いた恩に報いることができるように、これからの議員活動に努めて参りたいと思います。

最後に、このような貴重な機会をいただき深く感謝申し上げます。千葉大学が社会に大きく貢献され益々繁栄されますこと、在学生、OB、OGの皆さまのご活躍を心より御祈念申し上げます。



多方面で活躍される卒業生

ロックバンド つしまみれ

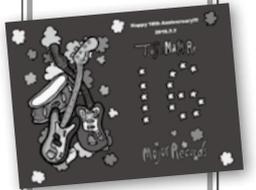


津嶋 やよい

(平成15年卒)

法経学部総合政策学科を2003年に卒業した津嶋と申します。私は現在「つしまみれ」という女性3人(全員千葉大OGです)のロックバンドのベーシストとして活動しております。

ミュージシャンとして生きるようになった最初のきっかけは、千葉大の軽音サークル「sound house zoo」に入ったことでした。「つしまみれ」は私が1年生のときに組んだバンドで、今でも同じメンバーで活動しています。とはいえ、サークルに入ってから初めてベースを触ったくらいでしたので、当時はまさか音楽を職にす



るとは考えてもみなかったです。

遊びでバンドをはじめ、その延長でオリジナル曲を作るようになってきました。オリジナル曲を作ってみたら、幸せな事に自分でその曲に感動してしまい(笑)、これをもっと多くの人に聞いて欲しいと思うようになりました。メンバー他二人は私より1学年上でしたので、二人が卒業した時残された私は少し焦って色々な会社やライブハウスにデモ音源を送ってつしまみれの活動をより広げられるように動き回りました。私も卒業し就職しましたが、仕事は精一杯やりつつもつしまみれの活動が止まらないよう三人で努力しました。

サークルの先輩に「つしまみれはアメリカでウケるんじゃないかな。」と言われた事があって、その言葉を思い出し鵜呑みにし、アメリカでライブをやる事とCDをリリースする事を目標にプロモーションを行いました。

ちょうど私が就職した年の冬にベンテンレーベルというアメリカでイベントの開催もしているレ

コード会社のオーナーに出会い、3月にアメリカに行きましよう!と声をかけてもらって、それが本格的に音楽の道へ進むきっかけとなりました。音楽を本格的にやっているといくにはその時の仕事との両立は難しいと感じ、思い切って退職しました。親には猛反対をうけ親子で何度も涙しましたが、決意は固かったです。他のメンバー二人もほぼ同じ頃に「つしまみれ」で生きて行く覚悟を決めました。だけれもお互いに対して強制はしなかったのに向かう方向性が一緒だったのが奇跡的だったと思います。

2004年の3月に初めてアメリカツアーに行きました。初めての場所でも何千人もの観客が私たちのライブに大興奮してくれて、自分たちも手応えみたいなものを掴むことができました。日本でもその後すぐにCDをリリースしました。

インディーズレーベル、メジャーレーベルを経て、現在は自主レーベル「Major Records」を立ち上げ自力で自分達の音楽を広めようと頑張っています。

CDが全然売れない時代になりましたが(実際どれくらい売れなくなっただのか調べてみました

↓アルバム1〜50位CD売れ枚数総計: 1994年3586万枚/2004年250万枚(2014年1153万枚)、それでもミュージシャンとして作品を作り上げる事が一番の軸だと思っていて、ますます熱い思いで作品を作り上げていきます。何年やってもまだまだ新しい発見があり、それは辛いことや悔しいことも山盛りですが、とつても楽しいです。



今年で、「つしまみれ」は結成16周年になります。昨年は15周年記念ということでベストアルバム

をリリースし15年間の総まとめをしたので、今年からまた新しい事をやり続けて行きたいと思えます。一方で、初心に帰って3月に5年ぶりのアメリカツアーにも行ってきました！つしまみれの今の目標は「武道館でワンマンライブ」をやる事と「80才までスリーピース」をやり続ける事です。

皆様、どうか応援よろしくお願ひ致します！！！！

振り返ると様々な出会いが今の人生に繋がっているなと思います。大学生の頃につしまみれのメンバー二人に出会えた事が本当に素晴らしい奇跡でした。あと、もう一つ、昨年の秋に結婚したのですが、主人も同じ千葉大学法経学部のOBなのです。沢山の貴重な出会いを貰えたことに本当に感謝しています。



すべての 依頼者を笑顔に

弁護士

脇田 敬志

(平成12年卒)

私は、高校3年の夏に理系から文系に方針転換し、弁護士を目指すことにしました。そして、難関試験を目指すのであれば、都心に

行かなければならない、という想いで平成8年4月に千葉大に入りました。しかし、千葉大に来てみると、予想外に牧歌的な雰囲気、大学4年間は、勉強にも身が入らず、名ばかりの受験生でした。今でこそ、千葉大は司法試験合格者数(特に合格率において)上位に名を連ねていますが、私が入学したころは、年に1名程度しか合格者はおらず、私が合格した平成16年も4、5名の合格者だったと記憶しています。

大学を卒業した後、就職をすることなく、退路を断って受験に専念し、そろそろ本当に、このまま進み続けていいのか、と思い始めた卒業4年目の平成16年に何とか司法試験を突破することができました。

その後、1年半の司法修習を経て、平成18年10月、現在も所属する丸山虎ノ門法律事務所に入所しました。当事務所は、本当にさまざまな事件を取り扱っています。最近良く、お客様から、得意分野はなんですか?と聞かれることも増えてきましたが、「得意分野は特に無く、何でもやれます。」、

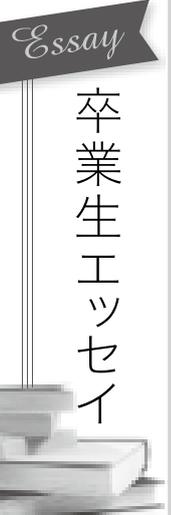
というのが私の答えです。実際、やったことのない分野は、医療、知的財産くらいで、取り扱い分野

は、一般民事、家事、商事、労働、建築、債務整理(破産管財、民事再生、会社更生)、刑事(裁判員対象、再審を含む。)など、多岐にわたっています。また、東京の事務所だから、ということも影響してか、地方の複雑に利害が絡み合った事件の依頼を受けることもあり、地方出張もしばしばです。

私は、弁護士になって8年目ですが、日々新しい依頼が来て、それに一生懸命取り組んでいるうちに、ここまで本当にあつという間に来たという感じです。

弁護士は、他人の人生を左右する職業です。ストレスも多く、大変な仕事だとは思いますが、自分には向いている仕事だと思えます。これからも出会う一人ひとりの依頼者の方と向き合って、出会ったときの暗い顔が、事件が終われば、笑顔でお別れできる、そんな日々を積み重ねていきたいと思っております。

現在、弁護士業界は、大増員時代を迎え、激しい競争の中にあります。そんな中でも、困って私を頼ってこられたすべての依頼者の笑顔を取り戻す、ということにこだわって、これからも、この仕事を続けていきたいと思えます。



卒業生エッセイ

アメリカ西海岸の
空の下から



金融序
越川 剛

(平成5年卒)

皆さんこんにちは！ 金融序に勤務しております越川と申します。私は昨年7月から、スタンフォード大学(米国)に客員研究員として出向しております。客員研究員というのは学生ではなく、自分が決めた研究テーマについて研究活動を行い、1年間の研究成果を大学の最終研究報告会で発表し、その後正式な論文として執筆し大学に提出して修了するというものです。

大学の正式名称は、リーランド・スタンフォード・ジュニア大学 (Leland Stanford Junior

University)。1891年創立

の、校訓は「Die Luft der Freiheit weht (独:自由の風が吹く)」。サンフランシスコから約60km南東に位置し、後述しますが地理上も、歴史的にもシリコンバレーの中心に位置しているこの大学では、現在ITを始めとする各分野において世界最先端の研究が行われています。スクールカラーはレッド、ホワイトです。赤色系という点で千葉大学のスクールカラーであるガーネット色とも似ています。

こちらに來ると、客員研究員が研究活動を進めていくために必要な指導教官として、各研究員に対し Faculty Adviser (担当教授) が大学から指定されます。そしてその教授と相談し、履修すべき授業科目を決めます。ただ、大学院生とは異なりそれは単位を取得するためではなく、研究を進めていくために必要な知識を得、かつ論文を執筆する上で必要と思われる情報等を得るためのもので、事前にその授業の担当教授から承諾を得た上で、聴

講という形で履修します。こちらの学期は年間を通じて大まかに、9月下旬から12月初旬までの秋学期 (Fall Quarter)、1月初旬から3月下旬までの冬学期 (Winter Quarter)、4月初旬から6月初旬までの春学期 (Spring Quarter)、そして6月下旬から8月中旬までの夏学期 (Summer Quarter) に分かれています。私は自分の研究テーマと現在考えている研究の方向性等について担当教授と相談した結果、昨年の秋学期はこちらの Law School において Administrative law (行政法) と Banking Law (銀行法) を履修しました。

因みに私は行政法多賀谷ゼミ出身なのですが、そこでかつて研鑽を積ませて頂いて本当によかったと思ったことが一つあります。行政事件訴訟に関して、日本は特に欧米諸国と比較しますと訴訟に至るケース(国の総人口に対する訴訟件数の割合)が少ないのですが、その理由や社会的な背景等について授業終了後に行政法の教授から別途メールで質問を受けたことがあります。回答に際しては、公務員としての経験則からだけでは困難な部分もかなりあり、かつ多賀谷先生にご教示頂いたこと

をいろいろと思い出しながら、現在の業務の経験則上分かる範囲での具体例を織り交ぜつつ、メールで回答させて頂きました。これは他の学問領域においても同じことが言えると思いますが、こと法律学に関しては応用する基となる知識の学び方のプロセス、そして重要なポイントの捉え方という点では日本においても米国においてもあまり違いはないと思います。今後引き続き、年間を通じてこちらの Law School の授業を履修することになっています。



研究テーマですが、私は現在、「金融行政を遂行するための最も効果的な手法 (Best Practice) についての考察」米国の金融行政と日本の金融行政との比較を通じて」というテーマで、論文の執筆に取り組んでおります。



昨年12月に中間報告会が行われたのですが、自分のプレゼンテーション後には教授陣から様々な質問やコメントが、矢継ぎ早に飛んできます。質問の内容は非常に多岐に渡り、事前に想定される質問等についての回答を十分に練りつつきちんと頭の中で整理した上で臨まなければ、途中で倒れて(質問に窮し答えられなくなって)しまいます。今年5月末から6月初頭にかけて行われる予定の最終研究報告会の席には、中間報告会の時のスタンフォードの教授陣に加え、UCバークレー等近隣の大学の有識者(教授陣)の方々も出席されることになっています。そして最終研究報告会終了後、その内容について正式な論文として執筆し、大学に提出して修了となります。

今回のスタンフォードへの出向は、私にとりましては大変貴重な機会です。仕事で必要な各国ごとの金融に関する制度や仕組み等について、日本での普段の生活の中でじっくりと勉強や知識の整理等を行おうと思っても、通常業務の中にあつてはどうしてもそちらが優先されますから、なかなか思う通りに運びません。昨年12月の中間報告会もそうでしたが、最終報告会も使用言語は(当然のことですが)英語です。しかもプレゼンテーション後の質問は、そのプレゼンの内容に即して行われますから、事前に知らされることはありません。プレゼンの直前に資料等を準備して時折大きな緊張感を感じることもあります。しかし質疑応答も含めたプレゼンテーション終了後の達成感は何とも言えず、感慨も一入です。

大学には私以外にも日本のみならず他の海外諸国からの多くの客員研究員の方がいらつしゃつているのですが、その方々の多くが、Ph.D.(博士号)を既に取得されています。彼等が持つバックグラウンドは裁判官、弁護士、大学准教授、元大手出版社CEO、石油会社、ガス会社、商社、メーカー、製薬会社、新聞社、シンク

タンク、官庁等様々です。ここではそうした方々と、金融庁での実務出身の私が英語を通じて金融分野のみならず例えば一般的な(企業や役所等の枠を超えた)組織論や組織の中での上司との関係性、部下の教育論等について議論する機会が豊富にあります。そうした機会というのは日本ではなかなか巡り合わせのないものです。

世界中の地域研究も積極的に行われています。例えば、TEEBE Studiesというプログラムがあるのですが、そこではイランを始めとする中東イスラム圏諸国が今日抱える紛争等様々な問題等に関する研究や、それらの諸国の美学美術史や音楽等芸術についての研究が行われています。研究成果の発表の場として、広く一般の方を対象とした公開セミナーも実施されています。

また、冒頭で少し触れましたがこの周辺地域はいわゆるシリコンバレーと呼ばれており、周囲にはグーグル、アップル、ヤフー、フェイスブック、インテル等世界的な大手IT企業の本社が集的に点在しています。そうした産業振興環境の影響を受け、こちらでは大学院修了後(スタンフォード大学では文系、理系を問わず修士

課程、特に理系ですと、Ph.D.取得後社会に出る学生が一般的です。)、主にIT関係で起業を志す学生が非常に多く、そうした学生向けにITに関する最近の話題を題材にした特別授業や実際に成功したスタンフォード大学出身の起業家OGやOBの方々を毎週持ち回り形式で招聘して行うリリーダシップセミナー等が豊富に開講されており、こうした授業が大変充実しているということもこの大学の大きな特徴であり、魅力の一つです。

因みに千葉大学工学部卒業後、大学院自然科学研究科前期博士課程を修了して日立製作所に入社した後輩が現在スタンフォード大学で同じ客員研究員として、分野は異なりますが研究生を送っています。そうした後輩の存在もまた、大きな心の励みとなっております。

最後に、後輩の皆さんに一言。近年の目覚ましい情報化、そしてグローバル化が進む中、現在千葉大学においても海外への留学を推奨する動きが非常に高まってきていると思います。自由な時間が豊富にある学生時代に留学を経験しておくべきか否かについて迷っておられる方も多いのではないかと

と思いますが、私個人の考えとしては、特に今回の経験を通じて、行けるチャンスがある時に行っておくということも一つの選択肢としてあり得るのではないかと思います。私自身、これまでも出張で海外に出掛けたことは何度もありましたが、出向という形で海外に滞在するのは、今回が初めてのことでです。当然研究ばかりではなく、特に着任早々はまず生活を立ち上げるところから始まります。毎年11月末のサンクスギビングデーやクリスマスシーズンには、教授宅や友人宅等に招かれ、(普段の飲み会とは異なる)正式なパーティに参加する機会にも恵まれると思います。また日本ではそうしたことを経験する機会は非常に少ないと思いますが、海外特に米国ですと、必ず一度は人種問題について考える機会にも直面します。そうした環境の中で大学内だけではなく、大学から一歩外に出た様々な局面において様々な人と接する中で、そこからその国ならではの価値観を学ぶということも、私は留学の意義として非常に大きいのではないかと思います。そしてそうした経験というのは、もし仮にチャンスがあるのであれば、皆さんのようなより吸収力の

ある若い時分に経験されておくことが、近年の時代の趨勢から申し上げても(あくまで一般論としてですが)今後より大事なこととなってくるのではないかと思います。そして、いずれにせよそうした経験というのは皆さんがこれから社会に出た後で必ず役に立つ時が来ます。貴重な学生生活の中で国内外を問わず様々な経験を積み、多くの素晴らしい友人を作って実社会に羽ばたいて行かれることを期待致します。



大学トピックス

2014年、第52回千葉大祭においてミス千葉大学に法政経学部から谷元星奈さんが選ばれました!

2013年のミス千葉大学 松浦涼真さんに引き続き、2年連続 法政経学部からの輩出となりました。

また谷元さんは全国の大学のミスコンテストのグランプリのみが集まるミスコンテストの頂点「ミスオブミス」のファイナリスト20人の一人にも選出されました!



谷元星奈

Tanimoto Seina

1995年11月21日

愛知県出身

身長 149.9cm

血液型 B型

— 趣味は？

料理・散歩・音楽鑑賞

— 所属サークルは？

バレエサークル
生協学生委員会

— マイブームは？

散歩・料理

— 好きな有名人は？

綾野剛・小栗旬
北川景子

— 好きな映画は？

アナと雪の女王

— 好きな言葉は？

まっすぐ

— 学生生活を一言で振り返ると？

たのしい!

— 将来の夢は？

アナウンサー

— ミスコンテストに参加したきっかけは？

友達に推薦された

— 特技は？

料理・書道・英会話

— 尊敬する人は？

両親

— 好きな本は？

人間失格

— どんな異性に惹かれますか？

心が綺麗な人

— 1つだけ願いが叶うとしたら？

背を伸ばしたいです

— 座右の銘は？

努力は人を裏切らない



思い出& 近況報告

昭和40年卒の クラス会 「四葉会」 しよつかい



安井 康 晴
(昭和40年卒)

当時の文理学部、法律・経済専攻のそれぞれ20名、合計40名が合同でクラス会を結成しました。以来、昨年までに31回の開催を数えました。原則として、6月第二土曜日に開催することになっています。

昨年の「四葉会」は、6月14日(土)に、23名の参加者(男性16名、女性7名)を得て、若者のデートスポット「お台場」での開催となりました。

梅雨入りしていて、天気心配でしたが、幸い快晴で穏やかな好天に恵まりました。

散策組は13:00に「りんかい線・国際展示場駅」に集合し、東

京臨海広域防災公園を訪れ、「そなエリア」(防災体験学習施設)を見学したり、パナソニックセンター3階の「デイスカバリーフロア」を体験して、会食会場のイタリアンの名店「トラットリア アルポルト」に到着しました。

東京臨海広域防災公園という名前からして、公園だと思っていました。内容は関東地域の防災対策施設でした。係員の方から約1時間半にわたり、熱心な説明を受け、防災体験ゾーンや防災学習ゾーンを案内していただき、最後に「紙食器の作り方」、「緊急用ホイッスル」、「防災そなえ手帳」などをおみやげにいただきました。この施設の存在を知らなかったもので、大いに勉強になりました。

次に、パナソニック・センターを訪れました。気温が30度近くまで上がって、暑かったので、ソフトクリームなどで小休止してから、「リスピーア」に入場して

(団体で400円/人)、見て、触れて理数の不思議を改めて理解

したりしました。

17:00過ぎに「トラットリア アルポルト」に到着し、早速、お店の前で集合写真を撮り、幹事挨拶の後、乾杯をして、「アルポルト」の逸品の料理に舌鼓を打ちながら歓談に入りました。

出席者が一通り近況報告を終えたところで、次回の幹事が決まり、「千葉大学歌」を合唱して、お開きとなりました。

このクラス会の特徴は、①幹事はその都度、有志が率先して勤め②原則として2回に1回は1泊旅行(北海道、琵琶湖、諏訪湖、小海町のリゾートホテル、成田、秩父、平塚七夕祭りなど)③夫婦同伴を歓迎し④平成17年から記念誌発行と、クラス会としてはユニークな点が挙げられます。

録音しておいた近況報告をICレコーダーから原稿を起し、デジカムで撮影しておいた写真を取り込み、欠席者の近況報告をメールや返信葉書から取り出し、A4サイズに編集・印刷し、製本して参加者に配布しています。昨年は、14頁の小冊子になりました。

こうした記念誌を作成するきっかけになったのは、会場で聞く近

況報告を皆さん意外と覚えていないもので、まして酔いが回ってきたりすると喋ってる本人が何を喋ったか覚えていなかったりします。

そういう意味で、こうした記念誌にしておく、そんな話があったのかと改めて気付くことがあります。

今年は、6月13日(土)〜14日(日)に、鎌倉に宿泊して散策を楽しむことにしています。



コラム

葉法会「模擬裁判」を
傍聴して

名古屋 泰

(昭和54年卒)

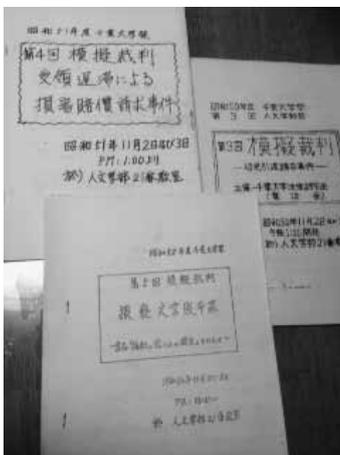
2014年11月2日(日)、何十年振りかで、母校千葉大学の学祭を訪れ、葉法会主催の模擬裁判を傍聴しました。テーマは「長時間勤務から起因した過労自殺についての損害賠償訴訟」です。開廷20分前に会場に着いた時は、傍聴席は、まだ疎らの状態でしたが、開廷時間になった頃は、すでに7割方聴衆で埋まっていました。真ん中に裁判官、向かって左側に原告代理人、右側に被告代理人が着席。裁判が始まりました。訴状の朗読、答弁書の朗読、証人尋問と進んで行き、判決へと。裁判を模擬したものに、全

体を通して厳粛に行われ、全体構成、台本、時間配分などもよく出来ていました。特に、裁判の流れや事件の争点の解説をしたり、判決の前での傍聴人への「判決アンケート」をしたり、傍聴人に親しみ易さを配慮したものになっていました。ただ欲を言えば、演出にもう少しメリハリを加えたら、もう少し面白い模擬裁判になったように思います。例えば、原告代理人が証人席まで近寄って尋問するとか、「異議あり！」を過剰に演技するとか。

私は昭和54年3月に千葉大を卒業しました。人文部法経学科法学専攻に在籍し、葉法会のOBでもあります。今回の模擬裁判傍聴のきっかけは、定期的に送っていただいている千葉大学同窓会報の24号に葉法会の活動記事が紹介されていて、そこには、後輩たちが

大学祭ですつと模擬裁判を続けてくれていることを知ったからです。早速スケジュールを確認し、どうせ行くなら仲間を声をかけ、

同窓会も一緒にやってしまおう！と募ったところ、同期を含め6人が集まってくれました。久しぶりの大学の印象は、兎に角樹木が大きい！40年ほど前に入学した時は、「西千葉駅前団地」と言えるほど、整然とコンクリートの箱が並んだ状態が見渡せましたが、今回は大きく育った樹木で、「その雄姿」は隠されていました。その後の懇親会は、西千葉駅南口の中華料理屋「生香園」へ。昔の話に花が咲き、当時のメンバーの消息にも話題が及びます。「W君は朝日新聞に入ったけど、役員になって大阪の方にいるみたいだ」との話も出ました。後輩のことなので、その時はあまり気にしませんでした。その後「吉田調書事件」で朝日新聞が揺れた後社長になった人物こそ、その時のW君本人であったことを付け加えておきます。



私が葉法会に在籍した時は、総勢15人に満たない位でしたでしょうか。それだけに、先輩、後輩との距離も近く、活動も濃密だったように記憶しています。分科会と大学祭での模擬裁判という活動は、現在にずっと引き継がれていることは、大変うれしく思います。思い出に残っているのは、やはり模擬裁判です。人数が少なかっただけに、必ずと言っていいほど配役が回ってきます。模擬裁判は私が入った2年前から始まったばかりで、1年の時は第3回、テーマは「幼児引渡し請求事件」の原告。2年では「労働争議権と受領遅滞」の原告代理人。3年では「猥褻文書頒布販売事件」で裁判長をやらせてもらいました。この時は法衣を最高裁まで借りに行ったことを覚えています。最高裁判事が着る法衣を纏っての裁判長は一生の思い出になっています。勿論この時の判決文は私が一人で書きあげました。また、2年の夏休みには、奥志賀高原で合宿がありました。夏合宿と聞くと、一日中暑い屋外で練習をする体育会系の合宿を連想しますが、我々のようなひ弱なサークルは、日中涼しい屋内で法学論争をし、夜は宴会といったタダレた合宿だった

ように記憶しています。ただ、その甲斐あって、その年の模擬裁判が成功裏に終わったのは言うまでもありません。

大学を卒業して36年になります。後輩の方たちがずっとと葉法会、そして模擬裁判を続けていてくれたことは、非常にうれしいことでした。これからも、引き続き活動をお願いしたいし、機会があれば、また傍聴に足を運びたいと思います。

【追記】

去る2月8日、当時の顧問、中川良延先生がお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。
合掌



理事

澁谷敏夫氏の
ご逝去にあたり



千葉大学法政経学部同窓会の役員として、発足時より同窓会業務に携わられた澁谷敏夫氏（文理学部 昭和33年卒業）におかれましては、平成27年6月にご逝去された旨の連絡をいただきました。

その報に接した時、私は、同窓会の大切な人材を失ったという深い悲しみを感じました。

澁谷氏の、千葉大学で学んだという強い想いは、澁谷さんの人生の中で、脈々と生きていて、千葉大学に対する深い愛情は、同窓会活動をしている中で、常に私ども後輩に向けて注がれていました。また、自らの同窓会活動にも表れており、同窓会活動が不調なときにも、「私で良ければ、いつでも、必要なきときには、お役立ててください。」と、卒業祝賀会、校友会総会、法科大学院の祝賀

会と、多くの大学の行事に進んで参加し支援していただきました。

年次幹事会・理事会への出席は、欠かすこともなく、写真を撮り、会議内容を要約し、出席者全員に写真ともども送付してくれるなど、その心遣いには、頭が下がる思いでした。

カメラが趣味なようで、カメラの記録は、同窓会報にも掲載され、校内の満開の桜、今の正門の景色、卒業祝賀会の女学生の華やかな和服姿の風景など、皆様方の目を楽しませていただいている事と思います。

同窓会報には、学生時代の北寮の思い出が、今も続いていることを紹介したり、当時の稲毛海岸の写真なども投稿していただきました。当時の事を知る方々には、懐かしい話題も提供していただきました。

最近は一才体調不良の話をしておりましたが、懇親会でもお茶を飲みながら、多くの後輩と交流を深めておりました。

澁谷さんについては、一言触れたいことがあります。

岡山県出身なので、同郷の政治家「5・15事件の犬養毅首相を尊敬」していたことでもあります。「木道会（犬飼 毅先生を偲ぶ会）」の事務局長に携わられ、年1回は命日に青山墓地に墓参されておりました。澁谷氏の人柄を、顕していることと申しあげます。

最後になりますが、ご逝去にあたり、澁谷敏夫先輩に対し、心よりお礼を申し上げますと共に、ご冥福をお祈りする次第であります。

会長 吉永 英明

澁谷氏の投稿より
「千葉大学北寮は、私達青春の館だったので。」

天下国家を論じ、寮生相和し、そして、勉学に勤しみ、アルバイトに励んだものです。紅顔の美青年も早や還暦、古稀、喜寿、様々です。生きて華、老いて足跡、終で無。

平成21年3月3日

祝 司法試験合格!

〜風に立つ二十六士〜

平成26年9月27日(土)、千葉大学大学院専門法務研究科(ロースクール)及びロースクール法曹会が主催する平成26年度司法試験合格者祝賀会が、千葉市の京葉銀行文化プラザ「楓の間」において催されました。

平成26年度司法試験は、千葉大学ロースクールからは84人が受験し、26人が見事に最終合格を勝ち取りました。他のロースクールが合格率の低迷にあえぐ中で、全国第8位という実績は、称えられるべきです。

祝賀会には、合格者のうち19名が参加しました。筆者も昨年、司法試験に合格し、祝賀会で先輩方の祝福を受けました。今年の祝賀会では、後輩達を祝ってあげる立場です。

後輩達の顔はみな明るく、晴れがましいものでした。徳久学長、金原研究科長をはじめ厳しい指導を続けてきた教授陣、我々を代表して招かれた吉永同窓会長も、彼らへの賛辞を惜しみません。一途

に合格を信じ、ひたすら勉強を続けてきた後輩達には、感じ入るものがあつたと思います。

ロースクールは今、2つの方向からの逆風に苦しんでいます。

ひとつ目の逆風は、司法試験合格者の減少です。訴訟事件の件数が伸び悩み、法曹人口の拡大・3000人合格の実現は、軌道修正を余儀なくされています。昨年度まで辛うじて2000人を上回っていた合格者数は、本年度は1810人に留まりました。全国上位を誇る千葉大学ロースクールでさえ、今年度の対受験者合格率は、21.84%です。

合格率が適正水準を超えて低下すると、合否に連の要素が入り込みます。苦勞してロースクールを修了した受験生達も、採点のイヤが生み出すわずかの点差に泣かされることになりかねません。

ふたつ目の逆風は、就職難です。司法試験合格者のほとんどは司法修習生となり、約10か月間の修習期間を利用して法曹の生の姿に触れ、自らの進むべき進路を見定めることとなります。裁判官、検察官、弁護士(法律事務所、企業内弁護士)といった法曹における採用活動、いわば「就活」も、この期間に佳境を迎えることとな

ります。しかし、訴訟件数の伸び悩みは、法曹人口の受入れ先を狭めています。裁判官や検察官の採用も頭打ちで、法律事務所や企業法務部の求人も減少の一途をたどっています。

極度の買い手市場は、過当競争を生みます。採用にあぶれた者は条件を下げてでも就活を継続しなければならず、それでも勤務先を決められない者は、ノキ弁(事務所)に所属しながら給料をもらわない、ノキ先を借りるだけのようない勤務形態のこと)、即独(弁護士登録と同時に立ち立ってしまうこと)といった形で、不安定なまま、法曹としての第一歩を踏み出すことになるのです。

この2つの逆風はすさまじいもので、ロースクールへ進学を希望する学生は、激減しています。昨年2月に行われた法曹養成制度改革顧問会議によれば、平成25年度のロースクール志願者は、制度発足当初の5分の1未満です。苦勞してロースクールを修了した学生の中にも、司法試験を受けることなく、民間企業や官公庁へと舵を切る者が少なくありません。

今年度最終合格した26人も、流動的な制度に振り回され、職域の減少を目の当たりにしています。

容赦なく顔面に吹き付ける逆風に、思わず目を背けたくなるほどです。しかし、それでも彼らは、千葉大学ロースクールで勉強を続け、司法試験に挑戦しました。そして、苦勞の末合格し、彼ら一人ひとりの目標へ向けて橋頭堡を築いたので。

合格祝賀会で見た合格者達の決意に満ちた顔は、さながら、逆風に立ち向かう志士のようなものでした。筆者は、千葉大学ロースクールを出た彼らが、厳しい現実と向き合いつつ、それでも前に進んで行くことができることを確信しました。

同窓会のみならずにおかれましても、逆風に立ち向かう若き二十六士を、暖かく、そして厳しく、見守っていただきたいと思います。

合格した後輩達が、これから益々活躍して行くことを、願ってやみません。

弁護士 鴨 下 智 法
(平成9年法経学部法学科卒・平成24年 専門法務研究科修了)

理事役員一覧

役職	氏名	卒業年
会長	吉永英明	S39
副会長	渡部靖征	S43
理事	藤崎吉彦	S44
〃	鈴木幸男	S43
〃	吉野聡	S44
〃	片山隆明	S47
〃	飯笹伸一郎	S47
〃	八代伸久	S48
〃	山田善一	S51
〃	渡邊誠吾	S53
〃	萩原博	S53
〃	井出浩司	S55
〃	石橋秀樹	S56
監事	岩出誠	S48
〃	川村敦	H01
学内理事	大塚成男	
顧問	押尾公人	S35

(平成27年度8月現在)

平成26年7月5日
(土) 千葉大学西千葉
キャンパス・人文社会科
学研究棟マルチメディア
講義室で千葉大学法政経

平成26年度 同窓会総会開催

同窓会

Information

だより



学部同窓会総会が開催されました。
記念講演では千葉大学法政経学部教授 酒井啓子氏により「動乱の国際情勢を中東から解明する」というタイトルで講演いただきました。

学部長に 酒井啓子氏就任

平成26年度法政経学部同窓会総会で記念講演いただいた酒井氏が平成27年4月1日付で千葉大学法政経学部 学部長に就任されました。
副部長には環境経済学の倉阪秀史氏が就任されました。倉阪氏はフェリスブックの「千葉大学法政経学部同窓会」グループにも参加されています。

同窓会への お便り・情報 を募集

皆様の近況報告、誌面への掲載希望や紹介、クラス会・OB会の報告など何でも結構です。
お気軽に同窓会事務局までお寄せください。

千葉大学法政経学部同窓会事務局 FAX 020-4624-1924
Eメール info@culpe-ob.com

編集後記

例年7月に開催されております同窓会総会が今年は9月開催となり、それに伴いまして会報も時期をずらしての発行となりました。
今号も朝日新聞社社長の渡辺氏をはじめ多くの方に快く寄稿していただき、心より感謝申し上げます。ご多用の中、本当にありがとうございました。
本会報も今号で第25号となりました。「25号」という一つの節目の会報編集に携わることができ、これまで会報編集に携わってこられた全ての方々の想いを今後も引き継いでいこうと気を引き締め直す所存でございます。
会員の皆様におかれましても変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。
最後に、長きに渡り同窓会にご尽力いただき、理事も務めてくださってありがとうございました。渋谷敏夫氏が御逝去されました。
会報の表紙も素敵な写真で飾って下さり、とても和やかなお人柄で誰からも大変慕われていらっしゃいました。
ここに謹んでお悔やみ申し上げます。
(編集委員)

同窓会総会

平成27年度同窓会総会を下記のとおり開催致します。
会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

日時 **平成27年9月26日(土)**

受付開始 12:10～

総 会 13:00～

記念講演 14:00～

懇 親 会 15:30～

会場

総会・講演会 人文社会科学研究棟2階
マルチメディア講義室

懇 親 会 けやき会館1階コルサ

懇親会
参加費

3,000円

※当日総会受付の際お支払いください。

記念講演

「発想の転換と経営戦略」

いすみ鉄道 社長

鳥 塚 亮 氏

とりづか あきら

鳥塚 亮 氏 プロフィール



昭和35年6月 東京生まれ
千葉県佐倉市ユーカリが丘在住

趣味／スーパーマーケットめぐり、ドライブ、線路歩き
家族／妻と4男1女

子供のころから乗り物好き。新幹線の運転士になるのが夢だったが、国鉄赤字による採用中止で断念。大学在学中から航空機の操縦訓練を受け資格取得。ところが航空不況で操縦士としての採用もなく、学習塾講師を務める。27歳の時大韓航空入社。成田空港勤務。30歳でブリティッシュエアウエイズ（英国航空）入社。20年以上にわたり一貫して成田空港で旅客、運航部門勤務。旅客運航部長。

在職中、32歳で鉄道のDVDを制作する有限会社バシナコーポレーションを設立。現在まで21年間、電車の運転席から前方の風景を撮影した前面展望ビデオを制作出版。DVDの本数は通算600タイトルを超え、日本で一番数多くの鉄道ビデオを販売している。

お手数ですが準備の都合上、同窓会総会及び懇親会の出席・欠席について、Fax又はEメールにて9月11日（金）まで、同窓会事務局宛にご連絡いただくようお願い申し上げます。なお、当日の参加も歓迎致します。その際には、名札用の名刺を1枚ご持参ください。また、住所等の変更のあった方は、併せてご連絡をお願い致します。

FAX番号 020-4624-1924（ご氏名・卒業年度を入れてお願い致します。）

Eメール info@culpe-ob.com（件名は『同窓会』でお願い致します。）